

## 2020.3.1 第一主日礼拝

### マルコ 12:41-44 「レプタ銅貨二つ」

#### 聖書

- 41 それから、イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちがたくさん投げ入れていた。
- 42 そこに一人の貧しいやもめが来て、レプタ銅貨二枚を投げ入れた。それは一コドラントに当たる。
- 43 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。
- 44 皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」

#### はじめに

新型コロナウイルス肺炎の感染拡大の心配がある中、すでにご案内のように礼拝および諸集会については皆さまのご理解とご協力をいただいて進めて参りたいと思います。今日は3月第一主日ですので本来は聖餐礼拝となっておりますが、聖餐は取りやめ通常の礼拝とさせていただきます。

現在教会は受難節に入っています。受難節とはイースター（復活祭）の前日から6回の日曜日を除いた40日間を指し、日曜日を含めると46日前の水曜日から始まります。この水曜日のことを「灰の水曜日」とも言い、今年のイースターは4/12の日曜日ですから、46日前ということと2/26から受難節に入ったこととなります。キリストの最後の1週間を表わす「受難週」ということばはよく耳にしても、「受難節」ということばは聞き慣れない方が多いと思います。プロテスタント教会によってはあまり教会暦を意識しないところもありますが、今が「受難節」の期間であることは心に留めていただきたいと思います。

それで3月の礼拝はキリストの最後の一週間の出来事を中心に思い巡らしてみましよう。本日はレプタ銅貨2枚をささげたやもめの話です。

## 1. レプタ銅貨2枚とは

どんなことでも打算や計算された言動にはある種の匂いを感じます。その匂いは、時には心地良い匂いではなく、人の醜さから放たれる悪臭であることもあります。一方で、そうした匂いを感じさせない言動があることも確かです。そのような言動に人は心打たれます。昨年12月にアフガニスタンで銃弾に倒れた中村哲医師の生き方に深く心動かされましたが、中村さんの生き方には純粋に現地の人々を愛した愛が溢れているゆえに、その言動が私たちの心に届くのではないのでしょうか。因みに中村さんは日本バプテスト連盟の教会で洗礼を受け、イエスさまの生き方を己の生き方として貫かれたクリスチャン医師です。自伝「天、共に在り」はマタイ1:23の「インマヌエル（神が私たちとともにおられる）」からつけられたそうです。そして、今日登場する一人のやもめの姿も、彼女の純粋な神さまへの思いのゆえに、私たちの心に語りかけるのです。

当時、多くの人々がエルサレム神殿にやって来て、思い思いに神さまに祈りをささげていました。神殿に入ってすぐのところに「婦人の庭」という区域があり、おそらくその庭の北側に献金箱が置かれていたであろうと言われています。場所は定かではないとしても、多くの人が行き交う場所に献金箱が置かれていたのです。衆目にさらされる場所に献金箱が置かれていたところにこのお話のポイントがあります。「イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。」(41節)のです。そこで見たものは、「多くの金持ちがたくさん投げ入れて」いる姿でした。より多くささげた者がより多く神の祝福を得ると考えたのでしょうか。人々はこぞって多くのお金を投げ入れたのです。

そこに、一人の貧しいやもめがやって来て、レプタ銅貨2枚を投げ入れま

した。レプタ銅貨は当時の通貨の中で最小単位の硬貨で、1レプタは1デナリの1/128にあたります。1デナリは一日の賃金に相当するので、今の金額に換算すると一日10,000円として、その1/128ですから約78円。つまりレプタ銅貨2枚は156円ですね。イエスさまはやもめがレプタ銅貨2枚をささげたのをご覧になって弟子たちに言いました。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」(43, 44 節)と。イエスさまはこれを群衆に向かって言われたのではなく、弟子に向かって言われました。やもめの姿を通して弟子道を教えられたのです。

## 2. being を大切にするイエスさま

実は、イエスさまはやもめの献金の姿勢を通して、ある人たちを痛烈に批判しておられるのです。そのある人たちとは当時の宗教家たち(律法学者たち)です。このやもめの献金の直前に、イエスさまは弟子たちに律法学者たちに注意しなさいと言っています。その理由は、「彼らが願うのは、長い衣を着て歩き回ることに、広場であいさつされることに、会堂で上席に、宴会で上座に座ることです。また、やもめたちの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。」(38-40 節)とあるように、律法学者たちは人の上に立ち認められること、人からほめられること、人を従わせる権力を手にすることに躍りになってきたからです。こうした下心を持ってなされる祈りや献金にはある種の匂いがついていて、それが鼻に付くことがあるものです。

このような宗教家たちの行為とは対照的なやもめの行為には純粋な神さまへの感謝と祈りの心が込められていて、それがどれだけ尊いことなのかを弟子たちに教えられたのです。やもめがささげたレプタ銅貨2枚は、彼女が生きる手立てのすべてだったとあり、それをイエスさまは「だれよりも多く投げ入れた」と評価されたのです。これは、皆さんの持っているものをすべて

神さまにささげなさいと言っているのではありませんから、誤解なされないようにしてください。イエスさまが評価されたのは、自分のすべてをささげても神さまを信頼して生きることを表明したやもめの心です。彼女の心を喜ばれて、「だれよりも多く」と言っておられるのです。このことは、私たちが神さまの前に、また人の前にどう生きるのかということに対する問題提起となります。

私たちが生きている社会は、目に見える行為や数量で物事の良し悪しを計る社会です。どのような結果を生み出したのかという成果で人の価値が計られる社会です。そうした評価基準の中で、自分が上なのか下なのか苦闘しながら生きているわけです。こんな基準は間違っていると思いながらも、誰も間違っていると言ってくれない中で疲れ果ててしまうことがあります。確かに人は外側のことばかりに目を向けますが、イエスさまはそうではありません。もしイエスさまが成果主義によって計る方だったらどうでしょうか。「もっと聖書を読みなさい、もっと集会に出なさい、もっと献金しなさい、もっと奉仕しなさい。そうしたらあなたは立派なクリスチャンになれる」と言われたら、私たちの信仰生活は苦行となりとても辛いものとなってしまいます。イエスさまはそのような方ではなく、私たちの心や在り方を大切にされる方です。よく言われるように「doing」ではなく「being」、何を行うか（あるいは行ったか）ではなく、どういう在り方をしたのかという心が大切なのであり、そこをイエスさまは見て評価してくださるのです。

このようなイエスさまの視点を持つ人たちが増えることを願っています。勿論、成果や結果などどうでも良いということを行っているわけではありません。私たちの生活を支えるために成果や結果が求められることを承知しています。しかし、成果や結果で計る基準しか持っていないという生き方ではなく、イエスさまのような心を見る視点、心を大切にする視点を持って生きる生き方を大切にして欲しいのです。私たちはいつも物事がうまく運ぶとは限りません。失敗や挫折をしたり、落ち込んだりするとき、「大丈夫だよ。あ

なたのことわかっているからね」と言ってくれる人が必要なのです。辛さや苦しみを抱える人の傍らにそっと立てる人にならせていただきましょう。イエスさまと共に生きることで、それは可能になります。

### 3. やもめの信仰に倣う

すでに触れたように、レプタ銅貨2枚を投げ入れたやもめの信仰は私たちに神さまを愛して生きることの幸いを教えるものです。やもめは、今自分にできる精一杯のささげものを、心を込めて行いました。多くの金持ちたちが投げ入れる中で、たった2レプタを投げ入れる場面を想像してみてください。人の目が気になったら、自分だけ違うことをするのをためらうかもしれません。かといって他の金持ちたちのようにささげることができなければ、その場から立ち去るしかないでしょう。やもめの視界には、献金を投げ入れる金持ちたちの姿は入っていなかったと思われます。彼女は人と比べて生きている人ではなかったのです。ただ神さまを見上げ、神さまに今自分にできる精一杯の心をレプタ銅貨2枚に託して投げ入れたのです。そこに神さまに対する純粋な思いが表れています。このような彼女の純粋な心に私たちも倣いたいものです。

神さまのみを見る信仰の目が大切であることは、イエスさまも仰っておられます。イエスさまがペテロに波の上を歩いてわたしのところに来なさいと言われたとき、ペテロはその通りにしたのですが、途中強風を見て怖くなり、沈みかけるとい話があります（マタイ14:29）。イエスさまの「来なさい」ということばだけを信じて踏み出したときは沈まなかったのですが、目をそらし強風を見た途端怖くなって沈みかけてしまいました。私たちは見るべきお方をいつも見ているでしょうか。私たちがイエスさまから周りのものに目を移し、心がイエスさまから離れてしまっているなら、そこから恐れが入り込んでくるのです。やもめのようにただ神さまを見続ける信仰をもって、今週を歩みましょう。周りを見て心が動かされることがあっても、最後は神さまを見るところに戻って来ることができますように。そこで、今自分ができ

る精一杯の気持ちを神さまに表わすことができますように。そのような歩みが継続されることで、神さまをより近く、より親しく感じる者となるのです。

## 結び

レプタ銅貨 2 枚の中に込められたイエスさまの視点とやもめの信仰。それぞれを私たちが持ち合わせることで、神さまに喜ばれる者とされます。どちらにも共通するのは、心を大切にすることです。目に見えるものの背後にある心を見ることができるよう。また心を形に変えてささげることができますように。その最も優れたものは、「私自身」をささげることです。心をささげることは私自身をささげることです。イエスさまに私自身をささげるとき、主は喜んで用いてくださいます。